とっとり しまね おかやま ひろしま やまぐち
コープCSネット 便り
中国・四国
とくしま かがわ えひめ こうち
生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合会報
第52号
発行
2018年11月1日
通巻52号

CO・OP 9生協の夢広がるネットワーク

第15回 仲間づくり研修会を開催

第15回仲間づくり研修会を山口県宇部市で開催し 中国地区四国地区から32名の研修生の参加がありました

グループワークの様子

フィールドワークの様子

2018年度 第2回 重点商品試食学習会を開催!

18年下期表紙商品、クリスマスケーキ・おせちなどの商品を中心とした重点商品の試食学習会を開催しました。中国地区5会員生協から56名の参加がありました。

試食学習の様子

CONTENTS

ページ
2 第15回 仲間づくり研修会を開催
3 「もずく基金」産地見学・生産者交流会
4 2018年度 第2回 重点商品試食学習会を開催!
5 2018年度 開発商品・品質管理研修会
6 7 コープCSネット トピックス
8 会員生協 トピックス

第15回 仲間づくり研修会を開催

開催日：2018年８月30日(木)～９月１日(土)
会　場：COCOLAND（山口県宇部市）
参　加：中国地区四国地区８生協　研修生32名　運営リーダー６名　計38名

第15回仲間づくり研修会を山口県宇部市で開催し、中国地区四国地区から32名の研修生の参加がありました。山口県宇部市での開催は、第4回、第9回に続く3回目です。

【初日】

６グループに分かれて
「おすすめトーク」をつくります

今回の研修会は、新入協職員９名・女性職員８名が参加という、今までにない研修生の構成でした

フィールドワークの様子
初日はペアで一般家庭を訪問します

写真は女性職員ペアでの訪問

フィールドワーク後
それぞれの活動の中での問題点や改善点をグループで討議します

仲間づくりとは、生協の良さを知っていただき加入につなげる活動です。会員生協によって活動内容は様々ですが、主に各種イベントへの出展や、家庭や職場を訪問して活動をしています。一般消費者・地域社会と生協の絆を築く仲間づくりですが、ひとりで活動することが多く、自己流になったり、孤独を感じたりすることもあります。研修会では研修生自身の活動を振り返り、相手（一般消費者の方）のお話をよく聞き、相手のニーズにあった商品を紹介するなど、より深い会話や対話につなげていく方法をグループで考えていきます。

今回の研修では、フィールドワーク（一般消費者の方のお宅を訪問し、生協のことを聞いていただく活動）を工夫しました。初日のフィールドワークをペアで回り２日目を単独行動することによって、仲間づくりにおける「気づき」を模造紙に書き出し具体化しました。

参加した研修生からは「相手の話に耳を傾けることの重要性を実感できた」「書き出し、掘り起こすことで、会話のターニングポイントを探り出すことができた」「トークをグループで作成したことで、フィールドにでるのが楽しみ。トークを作成したことで自信と余裕につながった」などの感想をいただきました。

【2日目】

初日の反省を踏まえ
「おすすめトーク」を作り直します

作り直したトークの練習の様子

３日間の実績
なんと加入者が過去最高の12名に!

研修生	訪問数	会話数	対話数	加入者	在宅率
32	1,821	585	343	12	32.13%

＊加入者は６グループ全てでありました。

「もずく基金」産地見学・生産者交流会

日　　程：2018年8月21日(火)～23日(木)
開催場所：沖縄県国頭郡恩納村
参　　加：会員生協組合員とご家族の方(14組28人　鳥取県生協、生協しまね、おかやまコープ、生協ひろしま、コープやまぐち、コープかがわ)
事務局他：会員生協職員、コープCSネット事務局、株式会社井ゲタ竹内、恩納村漁業協同組合

「もずく基金」産地見学・生産者交流会は、次世代に活動をつなげる取り組みとして、会員生協の組合員家族に**「目で見て、実際に体験し、生産者の想いを現地で聞き、サンゴ礁再生事業への理解を深めていただく」**ことを目的に実施しています。毎年、中国地区四国地区６会員生協から組合員家族に参加していただき、生産者や製造メーカーとの交流をはかっています。今年は、14組28人の組合員とその家族の方と生協職員・事務局等で、40名が参加しました。

6会員生協から14組の組合員とご家族の方が参加

初日　沖縄の海とサンゴの関係を現地で学び、体感する

初日は、荒天のためグラスボートやシュノーケリングで移植したサンゴの生育状況を確認することはできませんでしたが、沖縄の海とサンゴの役割を学習し、もずく生産者である恩納村漁業協同組合の皆さんや基金対象商品の製造メーカーである株式会社井ゲタ竹内の皆さんと交流しました。

- 恩納村漁業協同組合施設見学……もずく加工場での選別作業体験、恩納村の名産「海ブドウ」の養殖場の見学をしました。
- サンゴ移植体験……恩納村漁業協同組合の皆さんの指導のもと、グループに分かれて移植台にメッセージを記入しました。
- “里海づくり”の学習……もずく基金が、サンゴを増やす取り組みに果たす意義と、環境保全について学習しました。

もずくの選別作業を体験
とても細かい繊細な作業です

サンゴの移植台にメッセージを記入し、移植台にサンゴを取り付けます
人の体温でもダメージを与えてしまうので、サンゴの取り付け作業は慎重に行います

2日目　沖縄の海の生き物と沖縄家庭料理

- 干潟の観察……54種類の干潟の生き物（うち、12種もの絶滅危惧種）を発見しました。
- 沖縄家庭料理体験……沖縄そば、もずくの天ぷらなどの沖縄の家庭料理を恩納村婦人部の皆さんと一緒に作りました。
- 美ら海水族館を見学……海のいきものを学んだり、「サンゴ礁の旅コーナー」でサンゴの復習をしたりしました。

干潟での生き物観察

恩納村婦人部の皆さんと沖縄の家庭料理作り

最終日　沖縄の今と歴史を知る

沖縄の歴史や独自に花開いた琉球文化を学びました。

参加した職員の感想

組合員さんと一緒になって、サンゴの植え付けを体験し、干潟の観察で子どもたちとたくさんの生き物と触れ合いました。生産者の方達の熱い想いもたくさん聴くことができました。
子どもたちの元気と学ぶ意欲にたくさんの刺激をいただいた３日間でした。とても貴重な経験をさせていただいたことに感謝いたします。

2018年度 もずく基金積立額

2018年9月末時点で、1,249,075円になりました。(前年比118.7%)

命を育む海を未来にわたって保全するために、組合員が対象商品を利用し基金を積み立て、恩納村の海のサンゴ保全に役立てるのが「もずく基金」です。基金は、主にサンゴの移植に使われています。7年間で基金贈呈額が1,400万円を超え、移植したサンゴは約6,000本に達しました。2014年からは植え付けしたサンゴが産卵するなど、活動の成果も現れています。多くの組合員が、継続して「もずく商品の利用を高める活動」を実践することにより、もずくの安定供給を図り、基金によるサンゴ移植で沖縄の海の環境保全を行っていきます。

もずく基金については、こちらから　http://www.csnet.coop/mozuku/

2018年度
第2回 重点商品試食学習会を開催!

日時：2018年9月17日(月)　10:00～16:00
会場：おかやまコープ　オルガ（岡山市北区）
参加：中国地区５会員生協　56名、取引先：23社　48名

2018年度下期表紙商品、クリスマスケーキ・おせちなどの商品を中心とした重点商品の試食学習会を開催しました。今回の試食学習会では、中国地区５会員生協から56名の参加がありました。

重点商品試食学習会では、取引先やバイヤーの説明を聞くことでより高い商品知識を得て、実際に試食することで、商品の味やおすすめポイントを実感していきます。自らの言葉で、組合員さんへお伝えする内容を習得し、後半の分散会では、おすすめをする上での「悩み」や他生協の「成功事例」を共有化することにより、参加者が帰協した後の供給促進の取り組みにつなげています。

【学習した商品】

学習ブース	学習商品	講師(協力取引先など)
水　産	生ずわいがに肩	株式会社コ･ジャスナ
	数の子	株式会社シーサット 北海道漁業協同組合連合会 日本生活協同組合連合会
	有頭えび(ブラックタイガー)	株式会社シーサット
	天然ぶり切身(徳用)640ｇ(８切)	株式会社シーサット
	天然ぶり照焼用(徳用)480ｇ(８切)	株式会社シーサット
	ＣＳ 淡塩さば(３枚､切身徳用)	株式会社井ゲタ竹内
畜　産	産直牛(牛うすぎり中心)	鳥取県畜産農業協同組合 株式会社イサミ 全国農業協同組合連合会岡山県本部 畜産部 JA全農ミートフーズ株式会社
	産直鶏(鶏もも切身中心)	マルイ食品株式会社 株式会社ウェルファムフーズ 深川養鶏農業協同組合
	マルイ食品　チキン南蛮	マルイ食品株式会社
日　配	ＣＳ 鯛入り迎春蒲鉾紅白セット	フジミツ株式会社
	ＣＯ 丹波黒黒豆　大粒	株式会社ヒロツク 日本生活協同組合連合会
	ＣＯ お肉がおいしいミニ水餃子 ＣＯ お肉がおいしい水餃子	株式会社メイショク 日本生活協同組合連合会
	ＣＯ プリっとしたブラックタイガーえびフライ	株式会社ノースイ 日本生活協同組合連合会
おせち X'sケーキ 冬ギフト	生おせち(一ツ葉フーズ「扇」､千賀屋おせち「吉寿千」など)	野崎漬物株式会社(一ツ葉フーズ) 株式会社千賀屋
	クリスマスケーキ	株式会社タカキベーカリー 大山乳業農業協同組合
	冬ギフト	コープCSネット 特販課
ドライ食品	ＣＯ 切り餅､まる餅シングルパック	佐藤食品工業株式会社 日本生活協同組合連合会
	CO ならべてたべよう　えいごビスケット	日本生活協同組合連合会 コープCSネット 商品開発課
	ＣＯ お好みソース	オタフクソース株式会社 日本生活協同組合連合会
	ＣＯ 関西風縦型カップシリーズ	東洋水産株式会社 日本生活協同組合連合会

試食学習の様子
５つのブースに分かれ、1ブース40分の試食学習を行いました

◀壇上で商品説明をする株式会社千賀屋冨永さん

分散会の前に
「生おせち」の取引先２社に商品特長を説明いただきました

後半の分散会の様子
「おせち」について、「悩み」や「成功事例」を出していきます

分散会で話あった内容を報告し、全体に共有化します

コープCSネット・コープCSネット虹の会共催

2018年度 開発商品･品質管理研修会

開発商品･品質管理研修会　88社、124名が参加しました

日時：2018年9月26日(水)　13:00～16:30
会場：ホテルグランヴィア広島(広島市南区)
参加：取引先88社　124名、コープCSネット食品分野バイヤー

食品分野のPB商品（開発商品）の取引先を対象とした2018年度開発商品・品質管理研修会を開催し、88社124名の参加がありました。

今年度の研修会では、昨年に引き続き外部講師に八反田 誠氏（※１：一般財団法人食品安全マネジメント協会）を招き、「JFSの概要とフードチェーンでの活用」をテーマに講演をしていただきました。JFS規格は日本発の食品マネジメント規格で、日本の企業文化、食文化になじみやすくなっています。認証レベルに応じてJFS-A規格、JFS-B規格、JFS-C規格の３種類に分かれていて、JFS-B規格、JFS-C規格は※２：HACCPの７原則に対応しています。講演では、八反田氏よりJFS規格と実際に取得した企業での取り組みについて報告をいただきました。コープCSネットからは、今後、開発商品の工場点検の基準がJFS-B規格に準じる予定であることや、食品表示法に伴う食品表示変更についての報告が行われました。それに関連して一部表示の経過措置期間が2020年３月末までとなっていることから、コープCSネットでは開発商品の食品表示を随時変更していくことが報告されました。

講演をする八反田氏

【開発商品の食品表示の基本パターン(2020年4月～)】

名称　○○○○○
原材料名　○○○○、○○○、○○○、○○、○○○／○○、○○○○
内容量　○○○　g　(ml 他)
賞味期限　○○．○○．○○
保存方法　○○○○○○
販売者　生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合
〒732-8504 広島県広島市東区二葉の里 1-1-46
製造者　○○○○○○
〒000-0000 ○○県○○市○○町○－○

※表示事項、記載順序等は、原則としてこのパターンに従う。

原料原産地表示

※「生鮮原料の国別重量順位が限定できる」原材料については表示。

①原材料と添加物を明確に区分します。原則として原材料と添加物の間に「／」（スラッシュ）を入れます。
②アレルゲンを表示する場合は、原則個別表示としますが、読みにくい場合等は、含まれる全てのアレルゲンを最後に一括表示します。文言は「一部に○･○を含む」と表示します。アレルゲン表示は、特定原材料７品目と特定原材料に準ずるもの（20品目）を表示します。
③栄養成分表示を実施します。（すべての消費者向け包装加工食品、添加物への栄養表示成分が義務付けられます）

※１：一般財団法人食品安全マネジメント協会は、JFS規格とその認証の仕組みを構築し、運営する役割を担うスキームオーナー。
※２：HACCP　食品製造工程の総合衛生管理システム。平成30年６月13日に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律では、原則としてすべての食品等事業者にHACCPに沿った衛生管理に取り組むことが盛り込まれている。

コープCSネット　トピックス

トピックス1　2018年度 第1回 組合員理事懇談会

開催日：2018年９月６日(木)
場　所：第一セントラルビル２号館（岡山市北区）
参　加：中国地区四国地区９会員生協 組合員理事

組合員理事懇談会

「カビ取り先生」学習の様子
講師：南さん（コジット株式会社）

2018年９月６日(木)に2018年度第１回目となる組合員理事懇談会を岡山市で開催しました。事業報告としてコープCSネット塩道専務理事より「平成30年７月豪雨」における影響や支援の様子について報告がありました。

ミニ学習会は「クロナイン」（伸栄商事株式会社）と「密着ジェル　カビ取り先生」（コジット株式会社）について、実験をしながら詳しく学習・交流を行いました。

日本生協連からは、中国地区５会員生協の組合員さんが開発に携わった「CO・OPならべてたべよう　えいごビスケット」発売報告と下期重点商品（ヘルシーコープ、各種デザインボトルなど）の商品説明・報告がありました。 理事からは「生協は組合員の暮らしに寄り添っていると改めて感じた」などの感想をいただきました。次回は2019年３月を予定しています。

トピックス2　2018年度 第1回　広報担当者交流会

開催日：2018年10月４日(木)
場　所：第一セントラルビル２号館（岡山市北区）
参　加：中国地区四国地区９会員生協　広報担当者13名

朝日新聞社　講師

朝日新聞社より講師を招き「職場の文章技術：伝わるために」をテーマに講義と実践的な演習を行いました。演習問題には実際のＨＰや広報記事が使われ、より分かりやすい文章になるように、重要語句を抜き出してリライトしていきました。参加者からは「商品紹介という日頃よく目にする文章を材料に学んだのでとても参考になった」「一見まとまっているように見えても、直す点があることが分かった」などのご意見をいただきました。広報交流では、広報の立場からテレビCMについて意見交換を行いました。次回の広報担当者交流会は、2019年２月を予定しています。

編集者としての文章の再構成・再構築の手法を学びました。
パラグラフ（文章の一区切り）と重要語句の抜き出し、サマリー（前文・要約）の作成、実際の広報文章での演習など。

講義を真剣に聞く広報担当者の皆さん

トピックス3　2018年度 上期品質管理担当交流会

上期品質管理担当交流会の様子

開催日：2018年９月24日(月)
場　所：おかやまコープ　オルガ（岡山市北区）
参　加：中国地区四国地区４会員生協、コープしこく、コープCSネット品質管理担当者

2018年９月24日(月)に上期品質管理担当交流会を開催しました。７月までの品質保証の活動報告や、改正食品衛生法、HACCP取り組み状況、商品クライシス対応、組合員満足度アンケートの実施などについて意見交換を行いました。次回は、2019年２月の開催を予定しています。

トピックス 4　組合員さんの声をかたちに! 商品開発委員会

いろいろな商品が、組合員さんの声から改善されたり新しく出来たりしています。10月１回に日本生協連コープ商品（中四共同開発商品）として発売された「CO・OP お好みソース　300ｇ」もその一つ。商品開発委員会や会員生協の会議で、試食し味を定めていきました。

ソースの味を確かめる
鳥取県生協の組合員さんたち

・オタフクソース株式会社と共同開発した「CO・OPお好みソース」
・味の決め手は、厳選された原料。デーツ（なつめやし）による奥深い甘みと広島県産かきエキスを使用しています。
・煮込み工程を丁寧に行い、コクを出しました。
・お好み焼きだけでなく、焼きそば、トンカツ、コロッケ、カレーやハンバーグソースの隠し味など、様々な料理によく合います。
・300ｇの使いやすいサイズです。容器は、握りやすいスリムな形状になりました。使う時は容器を逆さにして軽く押すだけで適量が出てきます。
・アレルギー物質：小麦

【メーカーさんとの交流から】

・商品開発委員会ではメーカーさんとの交流も行っています。組合員さんの声から、新たな商品が生協限定で発売されました。
・その名も「四角いお好み焼き」、直球勝負の商品名です。
・開発のきっかけは「冷凍庫の中でかさばるから、四角いお好み焼きがあったらいいね」という組合員さんの声からでした。
・「四角いお好み焼き」も10月１回に発売が開始されました。

オタフクソース㈱「四角いお好み焼き」

トピックス 5　コープCSネット虹の会共催 第25回 重点商品学習交流会（非食品）

開催日：2018年８月３日(金)
場　所：おかやまコープ　オルガ（岡山市北区）
参　加：中国地区四国地区９会員生協職員（供給促進担当者、窓口）52名、取引先26社、コープCSネット役職員20名

おかやまコープ　オルガ(岡山市北区)において、第25回重点商品学習交流会を開催しました。重点商品学習交流会では、「配送現場で活用できる商品知識」の獲得や中国地区四国地区９会員生協の「成功事例」「供給促進活動と想い」などの交流を目的としています。今回は、取引先26社の協力を得て、25商品の学習を行いました。参加者からは、「もう少し説明の時間を長くしてほしい」「他社、類似品との商品比較をもっと知りたい」など、更に学習したい・商品知識を深めたいという積極的な感想を多くいただきました。

分散会では、主に成功事例の交流を行いました。他生協の成功事例を集中して聞き、事例をグループで交流していくことによって、事業所に戻った時に「活動の幅の拡大」や「それぞれの想い」を他の担当者と共有できるような交流になりました。参加者からは、「持ち帰るものが多くあった」「元気をもらった」「やる気が出た」「メーカーの熱意を感じた」などの感想をいただきました。

供給促進優秀者・最優秀者表彰の様子

各ブースでの商品学習の様子

会員生協トピックス

おかやまコープ・生協ひろしま　宅配事業の運営統一協議の本格始動にむけて

おかやまコープ・生協ひろしま・コープCSネットは、益々厳しくなる情勢の中で、組合員の暮らしに貢献し続け、事業を発展させていくためには、事業の質的向上及び経営基盤の改革が必要という共通認識のもと、両生協の事業の柱となる宅配事業の運営統一協議をすすめてきました。

2015年度より３者による宅配事業統一協議会を設置し、商品政策、安全基準、産直政策を統一し、PB商品統合や相互産直提携、第一媒体名統一などを実施しました。また、宅配事業の損益構造課題や主要課題の仲間づくり・共済・利用登録等の進め方、マネジメントに関わる分野の取組み共有をしています。

この間の協議を踏まえ、両生協は損益構造改革と宅配運営機能の統一による効率化を目標とし、安定した収益が確保できる事業構築に向けた本格的な検討を開始します。そのためにはオペレーション部分の効率化が不可欠であり、宅配主要機能（品揃え・物流・システム）を担うコープCSネットとの連携を一層強化するため、2018年７月より両生協の宅配運営は別々の組織のままコープCSネット本部ビル内５階の同一事務所で合同運営部を設置し、業務を行うこととなりました。

手前：生協ひろしま10名　奥：おかやまコープ８名、事務局２名の20名で業務を行っています

移転後は３者による損益構造改革課題（物流課題、後方人時、媒体コスト、商品課題など）を協議する「定期会議」と、統一運営課題（各課題の目標と戦術、マネジメントカレンダー、配送効率、配送品質、管理帳票、運営部業務など）を協議し定期会議へ提案する「マネジメントプロジェクト」「業務管理プロジェクト」において、日常的な運営推進や組織風土の違いについて交流をしながら統一にむけた成果を高めていくと共に、コープCSネットとの連携強化のための具体的な協議を行っています。また、相互の宅配基幹会議視察や事業所長交流会等も開始しました。

プロジェクト会議：両生協の責任者・実務担当者・コープＣＳネットによる協議の様子

平成30年7月豪雨　災害支援金の贈呈

2018年９月28日(金)おかやまコープオルガで開催された「コープCSネット第14期第３回理事会」において、全国からお預かりしていた「平成30年７月豪雨　災害支援金」を、おかやまコープ、生協ひろしま、コープえひめにお渡ししました。

平成30年７月豪雨は、死者200人以上、全半壊した家屋が17,000棟以上と、全国に甚大な被害をもたらしました。特に岡山県・広島県・愛媛県の被害は大きく、多くの方が被害にあわれました。コープCSネットには全国から４生協、17企業・団体、１個人から支援金が届き、お預かりしていました。
(第14期第３回理事会時点)

左から、おかやまコープ田中専務理事、生協ひろしま横山専務理事、コープCSネット小泉理事長、コープえひめ山川専務理事

発行:2018年11月1日･通巻52号　発行責任者:小泉信司　　発行事務局:総合企画室
生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合　〒732-8504 広島県広島市東区二葉の里1丁目1-46　TEL:082-236-6800

VEGETABLE OIL INK 植物油インキを使用しています。
見つめよう 暮らしと地球 資源を有効に、古紙を配合した紙を使用しています。